

# 「偏愛義弟の束縛レイプ〜ねえさんだけが俺の理解者〜」

## ■キャラクター詳細

### ●藤沢 橙弥（ふじさわ とうや）

ヒロインと同じ実家に住んでいる義理の弟。  
小さいころから姉のことが異性として大好きだが、  
下手に姉への気持ちを出すことで引き離されることを恐れている。  
自分のことを義姉がただの弟だと思っていることがわかっており  
自分の気持ちとの違いに苦悩していた。  
長年苦悩してきたゆえに歪みが生じており、  
義姉に初めて恋人ができたことで一気に噴き出す。

### ●ヒロイン

社会人、実家住み。

義弟のことは本当の弟のようだと思っている反面、ほのかな恋心を抱いている。  
橙弥への気持ちをくすぶらせるも、両親にも義弟にも迷惑をかけられない、  
と思いを断ち切るため先日、告白してきた同僚に〇スを出したが……。

19 ○収録区切り①

20 ●トラック

22 ■場所:ヒロインの部屋

23 ■時間:朝の時間

24 自分のベッドで眠っているヒロイン。手首は紐でベッドに拘束されている。  
25 橙弥はヒロインに覆いかぶさるように顔を覗き込んでいる。  
26

27 DHM:①

28 橙弥 「おはよう、ねえさん」  
29

30 ヒロイン 「ん？　どう、や？　……おはよ……ってなにこれ？」  
31

32 ヒロインが起きようとして腕の紐に制され、紐とベッドが軋む。  
33

34 橙弥 「ああ、痛い？　手、縛ったんだ。逃げないようにして。  
35 ねえさん、寝たらなかなか起きないし簡単だったよ」  
36

37 ヒロイン「なんでこんなこと……」  
38

39 橙弥 「なんでって……」  
40

41 ヒロインの唇を塞ぐ。  
42

43 橙弥 「(ティープキス10秒)」  
44

45 ヒロインが抵抗しベッドと紐がぎこちしく鳴る。  
46

47 橙弥 「(唇をぺろつと舐めて)悪い虫に盗られる前に、  
48 俺がねえさんの全部をもらおうと思って」  
49

50 ヒロイン 「……悪い虫って……っ」  
51

52 橙弥 「彼氏さん以外いないでしょ。昨日、付き合い始めたって報告してくれたじゃん。  
53 ……ほんと、腹立つ」  
54

55 橙弥 「十何年もずっと思い続けてきたのに、横やり入れやがって……」  
56

57 橙弥 「でも、過ぎたことはいんだ。ねえさんが『俺がいい』って言うまで、  
58 閉じ込めちゃえばいいんだから」  
59

60 困惑して声が出ないヒロインに微笑んで。  
61

62 橙弥 「大好きで大好きでたまらないねえさん」  
63

64 DHM:①寄り

65 橙弥 「逃がさないよ」  
66

67 頬を抑え逃げられないようにして。  
68

69 橙弥 「(ティープキス 15秒)」  
70

71 ヒロイン 「はあっ……やめてっ、こんな、っ……」  
72

73 橙弥 「やめて？ あんなやつより俺がいいって言うてよ。  
74 そしたら、やめてあげてもいいよ。」  
75

76 ヒロイン 「それは……っ」  
77

78 橙弥 「やっぱりアイツの方がいいんだ？ ……ふーん……でもあんなやつより、  
79 何倍も、何十倍も、俺の方がねえさんのこと愛してるから」  
80

81 橙弥 「ずっと前から、ねえさんだけ見てるんだよ」  
82

83 もう一度キスをしようとして顔を背けられ  
84

85 DHM:②寄り(③へ向かって)

86 橙弥 「横向いちゃって。唇より、耳にキスしてほしかったの？(耳にキス1回)」  
87

88 ヒロイン 「ふっ、んっ……」  
89

90 橙弥 「ふっ、かわいい声。ちょっと耳にキスしたただけなのにね。」

91 橙弥 「もっと聞きたいな、ねえさん(2、3回、耳にキス)」

92

93 橙弥 「(耳舐め 10秒)」

94

95 DHM:③(以降合間合間に耳舐めしながら)

96 橙弥 「はぁ……耳敏感なんだね。ちゅっ(キス1回)

97 ねえさんのことなのに知らなかった」

98

99 橙弥 「(耳舐めしながら)声我慢してるの？ かわいいって言ったから？」

100

101 橙弥 「もっと聞きたいのになぁ。舐めるだけじゃなくて舌奥まで入れられたらどっっ」

102

103 橙弥 「(耳舐め 10秒)」

104

105 橙弥 「(耳舐めしながら)はぁ、声我慢してるの？ 体がびくびくしてるよ？

106 どんな感じ？ そわそわする？ それとも気持ちよくなってきた？

107 反対側は、指で遊んであげるね」

108

109 橙弥 「(耳舐め 10秒)」

110

111 片耳を指腹で撫でたり耳中にいれたりして。

112

113 橙弥 「(耳舐めしながら)両方弄られるとたまらない？

114 そんな腰揺らして、まんじに響いてんの？ やらしいね」

115

116 橙弥 「(耳舐め 15秒)」

117

118 橙弥 「はぁ……すっっいえっちな顔になってるよ。そんな顔されたらぁ……

119 もっとえっちなことしたくなっちゃっっじゃな」

120

121 橙弥 「じゃまな服、とっちやっねっ」

122

123  
124

○収録区切り②

125 トロインの服を脱がそうとする。トロイン暴れてベッドが軋む。

126

127 DHM:③→①

128 橙弥 「むっ……暴れられると脱がせにくいよ、ねえさん」

129

130 トロイン 「やめてっ……姉弟なのにこんなの、だめだからっ……」

131

132 橙弥 「……姉弟だからダメって……」

133

134 橙弥 「ねえさんは俺が『弟』だから、好きになってくれないの？」

135

136 トロイン 「だって……橙弥は、血が繋がってなくても弟で。弟は……やっぱり……っ」

137

138 橙弥 「血が繋がってないんだから、本当の弟じゃないってことじゃん？」

139

140 トロイン 「私は……ずっと、弟だって思ってた接してきたから……」

141

142 橙弥 「弟と思ってる、か。まあ、俺もずっとねえさんとして接してきたしね。  
143 ねえさんのこと好きなのを隠しっ」

144

145 橙弥 「なんでっって、そりゃ、俺のねえさんへの気持ちがあればっ、  
146 引き離されるかもしれないじゃん。血が繋がってないんだからっ。  
147 好意を持った男が同じ屋根の下で暮らすなんて、許されないでしょ」

148

149 橙弥 「だからちゃんとした弟でいたんだよ。男じゃなくて弟とっっ。  
150 俺はね、ずっとねえさんと一緒に過したかったから。  
151 同じ家で、一番近い場所で、ね」

152

153 橙弥 「でも、弟だっていうのが、俺の気持ちを受け取れない原因に……  
154 ねえさんの足かせになってるっていつんだったら」

155

156 橙弥 「……その足かせが外れるまでたっぷりじっつり愛っっあげるね」

157

158 橙弥 「そしたらちっつと、俺のっっ男とっっ見えるようにするわ」

159  
160  
161 無理やり服を脱がす。

162 DHM:①→①下(胸の位置)  
163 「はあ、ねえさんのおっぱい、いつ見てもそろえられる。  
164 服の上からでも十分魅力的だけ。」  
165 かわいくてえろい乳首は脱がさないと出てこないしね」  
166

167 はだけた胸を優しく揉んで。  
168

169 橙弥 「やっぱねえさんのおっぱいって柔らかくて気持ちいいなあ。  
170 手のひらに吸い付いてきて触り心地もいいし。いつまでも、揉んでたくなる」  
171

172 橙弥 「あれ、おっぱい揉んでるだけなのに乳首、もうパンパンと立ってる。  
173 やめてっという割には反応いいね？ 本当は触ってほしいんじゃないの？」  
174

175 トロイン 「ちが、だめ……っ」  
176

177 橙弥 「ひん？ ダメなの？ でも、触ってあげる」  
178  
179 乳首を柔らかくつまんでぐりぐりと弄る。  
180

181 橙弥 「ほら指でぐりぐり」ねられるのぐっ。  
182 そんな体よじっ……感じてるんじゃないっ。」  
183

184 橙弥 「首振るだけで、ちつきみたく反論しないの？ 声、我慢してる？  
185 ほんとに感じてるんじゃないの？」  
186 弟の指で乳首遊ばれてち、こーんなかわいい反応してるのに……。  
187 っ、まだ否定するの？ じゃあ、少し強くなつたほうがいい？」  
188

189 乳首を強めにちゅっ、っつまむ。  
190

191 トロイン 「あー」  
192

193 橙弥 「っ、ねえちゃんって乳首弱いよね。かわいい声だしちゃって……」  
194

ヒロイン「そんなんじゃない」

橙弥「そっか、指だけじゃ物足りないんだね？」

ちっきの耳みたく舐めてほしいでしょ？」

DHM:⑧ド(右乳首)

橙弥「(乳首舐め10秒)」

橙弥「はあ、乳首こりこりする。だんだん硬くなってきた、俺の舌押し返してる」

橙弥「(乳首舐め10秒)」

橙弥「ちゅっ、ん……どう？ 乳首こっただけ勃たせて、感じてないって？」

DHM:①

橙弥「ぶーん、弟相手じゃ感じてないって？ほんとに？じゃあ、確かめてみようか。  
ねえさんのまんこ」

するすると手を下半身に滑らせ、下着の中に差し込み指でまんこを撫でて  
ぐちゅっという音。

橙弥「あれ？じゅっぶん濡れてるけど……」

ああ、そっか。まだまだ感じ足りないってことか」

橙弥「じゃあ、俺がたくさん感じさせて気持ちよくさせてあげるよ」

橙弥「大丈夫、ねえさんの感じるこっちはちゃんとしてるから。」

ほら、まずはクリから……っうやつっ……

指の腹で円を描くように撫でられるのが好きなんだよね？」

クリを指の腹でなぞり。

ヒロイン「あんっ……やあ……なんっでっ」

橙弥「えっ、なんっでっ……俺がねえさんの体を弄るのは初めてじゃないから」

231 橙弥 「ほら、いつもみたいにイッていいよ。イクまでクリいじめてあげるからわ」

232

233 橙弥 「(手マン 10秒)」

234

235 橙弥 「(手マンしながら)まだイケない？」

236 ほら、もうねえさんのマン汁でクリんとじめるめるじってる。

237 すこじ滑っていいじりやすいよ。ぐちゅぐちゅ音してすこげえ、えっる」

238

239 橙弥 「(手マンしながら)ほらっ、もうちょっとー」

240 足っっぱってきたっ！ イけっ！ イけよっ！」

241

242 橙弥 「(手マン 15秒)」

243

244 クロイン絶頂

245

246 橙弥 「ぐっぐっ、中すこじ締め付けて、やっぱっ、指のまれそっ」

247

248 DHM:①

249 橙弥 「はぁ、イッてる顔、ヤロー(頬にキスー回)」

250

251 橙弥 「起きてるど、こんな、すこぐっかわいいんだね。

252 寝てるときより、えろかわいいいよ(唇に2、3回、キス)」

253

254 橙弥 「ああ、やっぱり気が付いてなかった？

255 今までずっと、寝てるねえさんに、ちよつかいだしてたって」

256

257 橙弥 「こんなかわいいねえさんと同じ屋根の下で暮らしたらわぁ……

258 我慢なんてできなくて当然でしょ？」

259

260 橙弥 「それに……ねえさんってわ、寝たらなかなか起きないじゃん？」

261

262 橙弥 「だから最初はさ、寝てる間にこうやって……(頬にキスー回)キスだけ。

263

でも、ちゅつも起きなっ」

264

265 橙弥 「そーしたら、だんだんもつと触りたくなっわ。

266

我慢できなくて、服の上からおっぱい触ったりして……」



267 橙弥 「でもすぐに服の上からじゃ物足りなくなった。

268 だからこんな感じで直接揉んで……」

269 270 橙弥 「ふふ、今みたく揉んだだけで声、出たりはしなかったなあ」

271 272 橙弥 「はあ……でもほら、あの時もこんな風になつてた。

273 乳首がぷっくり膨れて赤く充血して……」

274 275 橙弥 「やっぱ乳首つまむと、いい声でるね。最初の時も、かわいい声だったなあ。

276 小さかったけど、ほんと思い出して興奮する。

277 ああ、今の声もすごいかわいしい、興奮するけどね？」

278 279 橙弥 「で、毎晩……こうやって、乳首を指の腹で弄んだり、強くきゅっ、てつまんだり。

280 声がでるやり方で触り続けて……」

281 282 橙弥 「こんなに声でてるのに起きないんだ、って感じだったなあ」

283 284 橙弥 「まんこもぐちゃぐちゃに濡れちゃうしわ。

285 ああ、ねえさんって寝くとも感じるんだって、

286 俺で感じるんだって嬉しくなったね」

287 288 橙弥 「もちろん、乳首だけじゃなくて、クリもたくさんかわいがったよ。

289 指だけじゃなくて、舌も使って……さっきみたくイかせられるまでには、  
290 時間かかったけど」

291 292 ヒロイン 「あれって、夢じゃ……？」

293 294 橙弥 「へえ、俺とえっちなうとする夢だと思ってたんだ」

295 296 橙弥 「あ、でも、さすがに、最後の一線は超えてないよ。

297 寝てる間なんてもったいないしね。

298 けど、今日がその記念日にしようと思ってる」

299 300 橙弥 「大丈夫だよ。優しくするさ。」

301 まんこの中だって、俺の指初めてじゃないんだよね。」

302

○収録区切り③

「寝た時と同じようにするからわ。  
じつくりゆっくり、ねえさんの中、柔らかくほぐしてあげる。  
ほら、入り口がもの欲しそうにひっくり返るよ」

指でまんこの入り口をぐちぐちと浅く弄りながら。  
「ロインが暴れるベッド軋む音。」

「もー、まだ抵抗すんの？ 今更じゃん？ おとなしく受け入れてよ」

「あゝもしかして、怖いとか？  
そこか、ねえさんにとっては初めてみたいなものだもんね。  
じゃあ……指よりやわらかい舌でほぐしてあげる」

DHM:①→①→①(足の間に顔をうずめ。)

「はっ……汚くなんてないよ……ねえさんのまんこ、いい匂い……」

「(クニニしながら)はあ……どうだろう、だし、舐めても、舐めても、溢れてくる。  
くりもまた、じつくりくぐらんとはいやらしいね」

「ほら、くりも、もっとじゅめてあげるよ」

「(クニニ 15秒)」

「腰跳ねて、きもちいいんだ？ もう、声も我慢できてないね」

「はあ、いい声、甘くて頭の中じびれてきそう。  
中まで、舐めてあげるから、もっと鳴いてよ」

「(クニニ 10秒)」

339 DHM:①→②  
 340 橙弥 「はぁ……どうっ。って、顔見ればわかるね。  
 341 すこい、えろっっ」とろけきった、かわいい顔してるから」  
 342  
 343 橙弥 「はぁ、ほんつと、たまんない。ほう、体の力抜けてるね。指もすんなり入るよ。  
 344 嬉しそうに、きゅんきゅんまとわりついてきてる」  
 345  
 346 橙弥 「体はもう俺がいつだって言ってるよ？  
 347 弟だからとか、どうでもよくなってきたんじゃない？」  
 348  
 349 トロイン 「でも、でも……っ、お父さんたちがダメって、いう、わっ」  
 350  
 351 橙弥 「確かに……父さんも、母さんも、反対するかもしれないね。  
 352 でも俺には、ねえさんの方が大切。ねえさんとだけ、いらればいい。  
 353 ねえさんが俺のものになれば、他は全部捨てたっていいんだ」  
 354  
 355 トロイン 「橙弥……ひゃっ」  
 356  
 357 橙弥 「まだ足りないみたいだね。  
 358 もっと、何もかもぶっつぶさなきゃならい気持ちよくなせしあげよう」  
 359  
 360 DHM:①→②→③(左乳首)  
 361 橙弥 「ふわふわ乳首舐められながら、まんこ弄られるの、大好きでしょっ」  
 362  
 363 橙弥 「(乳首舐め+手マン 10秒)」  
 364  
 365 橙弥 「ん、はっ……やっぱ乳首は反応違うね……  
 366 んちゅっ(乳首舐めながら)中がすっごいっねっね動いてるよっ」  
 367  
 368 橙弥 「(乳首舐め+手マン 10秒)」  
 369  
 370 橙弥 「はぁ……声もちゅっ、寝てるよちだっしんな声、聞けなかったよ。  
 371 ねえちゃん、はぁ、やっぱ、んんね。ちゅっくちん、にゅるっ」  
 372  
 373 橙弥 「(乳首舐め+手マン 15秒)」  
 374

375 橙弥 「はあはあ……もう、ほんと、その声、興奮する、ふふ、二本に増やそっか。  
376 早く繋がりたいし(指を一本増やし)んっ…」  
377

378 橙弥 「(乳首舐め+手マン 10秒)」  
379

380 電話が鳴る。  
381 手マン止めて。  
382

383 DHM:②ト↓①(電話をみる、マイクをやや外し)  
384 橙弥 「なんだよ、こんな時に……入え?」  
385

386 橙弥 「彼氏さんだつて。心配して電話してきたのかな? い・ち・お・う、彼氏だし。  
387 会社には、ねえさん熱出したつて連絡したしね」  
388

389 なり続ける電話  
390

391 DHM:⑦(耳元でわちゃぐ。)   
392 橙弥 「ぐっするっ。電話、出るっ。」  
393

394 橙弥 「ほら、手も外してあげるし、電話、出たいなら出れるよっ。」  
395  
396 手の拘束を外す。(DHM:①で外す動きの息)  
397

398 DHM:①(手マン再開。以降手マンしながら。)  
399 橙弥 「ほら、早くしないと彼氏さん諦めちゃうよっ。  
400 電話で大丈夫っていつてあげないの?」  
401

402 DHM:⑦   
403 橙弥 「それでも、まんじ気持ちよすぎでしゃべれない?  
404 わっさからえっろい喘ぎ声ばっかだし」  
405

406 橙弥 「じゃ、俺が、彼氏がいるのに弟にまんじほじられてますって、  
407 教えてあげよっか?」  
408

409 橙弥 「しかもまんじ気持ちよすぎっ、  
410 声が抑えきれないくらい感じまへってる淫乱おっちゃん」

411  
412 橙弥 「あれ、もう、声抑えちゃって。  
413 それじゃあ、電話でも、ねえさんのこと伝わらないよ？  
414 ああ、いつそ耳も舐めて、乳首も弄って……  
415 敏感なところじゃーんぶいっぺんに責めてあげよっか」  
416

417 橙弥 「〔耳舐め＋手マン（１０秒）〕」  
418

419 橙弥 「〔耳舐め＋手マンしながら）あー……やっぱり、我慢しても…  
420 はあ、こらえきれずに出る声って、マジでチンコに直撃する。  
421 はあ、こんなの電話越しでも聞こえたらやあ？  
422 彼氏さんもたまになくなっちゃうよ」  
423

424 DHM:⑦→①  
425 橙弥 「〔耳舐め＋手マンしながら）でも、こーんなかわいいねえさん、  
426 誰にも教えたくないなあ。ねえさんは俺だけのものだから。  
427 やっぱり電話でも聞かせてやんない」  
428

429 一度ロインから離れ、鳴りやまないスマホの電源を切る。  
430 （ベッドわき、サイドテーブルのようなものに携帯が置いてあるイメージ）  
431 DHM:①  
432 橙弥 「俺とねえさんの世界に、他の男なんて要らないよ」  
433

434 DHM:③  
435 橙弥 「ねえさんは、俺だけを感じっ」  
436

437 橙弥 「〔耳舐め＋手マン（５秒）〕」  
438  
439 橙弥 「〔耳舐めしながら）んはあ、気持ちいい？ 体びゅびゅっ」  
440

441 橙弥 「あー、耳とまん」同時にじゅぽじゅぽされるの、好きなの？  
442 はあ、もう、イキそうなのわかる。感じっっっっっっっっっっっっ」  
443

444 橙弥 「ほら、いいよ、イキなよ。いっっっっっよ。ほら、いいよ、おねえさん、おねえさん、  
445 乳首強くつままれて、俺の指でまんじゅ、いい、一番弱さよ」  
446 ぐっぐっぐっぐっぐっぐっぐ」

447  
448 橙弥 「(耳舐め+手マン 10秒)」  
449

450 トロイン絶頂  
451

452 トロインがイクと指を抜いて。  
453

454 橙弥 「はぁ……えっろ……今までで一番激しくイッたんじゃない？」  
455

456 橙弥 「イッてるねえさんって、かわいいし……すっごくいそそるね」  
457

458 橙弥 「何回でもイかせたいけど、俺もー、はちきれそう。……見てよ」  
459

460 スポンを下ろし、そそり立つチン」を取り出す音。  
461

462 橙弥 「ちつきからさあ、ずっと収まんないんだ。ねえさんがえっろかわいすぎて。  
463

464 もう、ねえさんの中にいれないと、無理。我慢なんて、できない」  
465

466 橙弥 「それに挿れたらもう……後戻りできないでしょ？  
467

468 弟とか関係なく、俺とねえさんは繋がるんだよ」  
469

467 ○収録区切り④  
 468 ●トラック2  
 469 橙弥、ヒロインに性器を挿入する  
 470 DHM:①  
 471 橙弥 「んっ……ああ……(先端まで、ゆっくり挿入していく)」  
 472  
 473 橙弥 「はあ、まんこ汁すっげー絡んでくる。」すりつけるだけでも気持ちいい……  
 474 はあ………すっげえ、入り口はぐっぽくっしてるよ」  
 475  
 476 橙弥 「はあー、………すっ、奥まで入れたら、耐えられなさぞ。  
 477 すっごい興奮、してるんだ、俺。はあ、ねえさん、かわいい」  
 478  
 479 橙弥 「だめだめ、初めてなんだから、ゆっくり、たくさん、愛さなきゃ。  
 480 ねえさんだってさあ、すぐ終わらない方がいい、でしょ？  
 481 だから、ナギッぽだけ」  
 482  
 483 橙弥 「(ゆっくりゆっくりピストン弱程度 10秒)」  
 484  
 485 橙弥 「ん、ははっ、入り口、ぐちぐち、浅く出し入れされるの、ぐっっ。  
 486 声出てるし気持ちいいよね？ 俺も、きもち、いいよ」  
 487  
 488 橙弥 「はあ。でもやっぱり、ちゅっものたりない、なあ。ねえさんも、ものたりない？  
 489 腰、動いてるっ」  
 490  
 491 橙弥 「体はこんなに、俺を求めて、受け入れようとして。うれいよ。  
 492 奥まで、いれるから。はあ、んん、ねえさんの心の奥でも俺のJJ……  
 493 受け入れて、よ」  
 494  
 495 ちゅっをゆっくりとまんこに挿入してっ。  
 496  
 497 橙弥 「はっ………はあ………ちゅっJJ………っ」  
 498  
 499 橙弥 「ねえさんのなかですっJJ、はっ、きもちいいっ、はあ……  
 500 んん、すっJJ、絡みついて溶ける………あー………はあっ、動く、よ」  
 501  
 502 橙弥 「(ゆっくりピストン弱 10秒)」

503  
504 橙弥 「あー……んんっ、だめ、これ、はっ、気持ちよくて、腰止まんない……っ」

505  
506 橙弥 「(ピストン弱中 10秒)」  
507  
508  
509 抱きついて耳元で。

510 橙弥 「(ピストン中)ねえさん……、ねえさん……はっ、大好き……  
511 やっと繋がれてうれしい、よ、んんっ、ねえさん、愛してる……っ」

512  
513 橙弥 「んあっ、なかとろっころであっっっ……はあ、はあ、もっど、もっど…  
514 声、聞かせて、ねえさんの喘ぎ声、めっちゃくる……っ」

515  
516 橙弥 「すべ、イキぞ、んん、やだな、まだイかない、よ。  
517 ねえさん、のこっ、もっときもちよく、させない、と。  
518 俺だけ、見てくれるよ、(こわ)」

519  
520  
521 耳元から乳首に移動。

522 DHM:①→⑧ト  
523 橙弥 「はあ、揺れてる、おっぱいも……わいっっ、舐めて、あげんね」

524  
525 橙弥 「(乳首舐め+ピストン中 10秒)」

526  
527 橙弥 「んんっ、しめつけ、っふっー、きもちいいんだ？  
528 はあ、もっど舐めて、あげる、っ、っうちの乳首は、つまんで、あげるね」

529  
530 橙弥 「(乳首舐め+ピストン中 10秒)」

531  
532 橙弥 「はあ、もう、ねえさんの、今の姿、すっっっい、想像してたのより、ずっっ。  
533 はあはあ、えっろ、かわいっっー」

534  
535  
536 体起っして顔を見つめ。

537 DHM:①  
538 橙弥 「も、俺も、限界……だから、激しっっっいっっ？ ちんぽっ。」



539  
540 橙弥 「(ピ)ストン中(強)はあ、はあ、きもちい、いつ、ねえさん。好きだよつ。  
541 はあ、ずっと前から、ずっと、はあ、んん、好きだった、大好き、だった。  
542 ずっと、見てた、ねえさん、だけ、見てた。大好き、大好きつ、大好き、だいすき  
543 大好きつ、愛してる、からっー」  
544  
545 橙弥 「だから、俺の、全部、受け入れてっ！ 愛してる、愛してよっ」  
546  
547 橙弥 「うっ、あ、なんかすごい吸い付いて、っー」  
548  
549 トロイン絶頂。  
550  
551 橙弥 「ん、はっ、イってるまんこ、やっべっ、んんっ、締め付けすっ」  
552  
553 橙弥 「(ピ)ストン強 10秒)あー…いく…いくっ…」  
554  
555 橙弥 「あ、も、ぐるっー」  
556  
557 中に射精して。  
558  
559 橙弥 「はあ……はあ……(息整える8秒)」  
560

○収録区切り⑤

DHM:①  
「はぁ……はぁ……(息整える5秒)」

息を切らしているところまでヒロインに抱きしめられ、驚いた顔をする。

DHM:②寄り上(③にかける5秒)  
「はぁ、えっ？ ねぇさん？」

ヒロイン 「はっはっ……好き。ほんと、は、橙弥が、はっ、好き……」

橙弥 「ねぇさんが、俺を……好き？」

DHM:①  
「じゃあ、なんで彼氏なんかー」

ヒロイン 「血は繋がってなくても姉弟だから……  
橙弥のこと好きじゃお父さんもお母さんもみんな困ると思って……  
橙弥への気持ちを断つために告白、受けたの……」

橙弥 「俺への気持ちを断つためって！ なんだよそれも……」

橙弥 「俺はずっと弟じゃなくてねぇさんの彼氏になりたかったのに……、  
変に気をまわして……はぁ……」

橙弥 「もういいや。ねぇさんが俺だけを見てくれるなら、それで」

橙弥 「あっ！ でもまた他所に行こうとしたら絶対許さないからね！  
閉じ込めてでも、よそ見させないようにしてやるからっ！」

橙弥 「愛してるよ。ねぇさん？」

ヒロイン 「私も、愛してる」

橙弥 「あー、もー、同じ言葉返ってくるのか、うれしすぎて、やば」

597  
598  
599  
600  
601  
602  
603  
604  
605  
606  
607

橙弥 「このまま、もっかい押し倒したい」

ヒロイン 「えっ！ や、やじゃないけど……っ」

橙弥 「でも……やっぱ、その前にケジメつけてほしい。

ちゃんとねえさんが彼氏さんと別れたら続き、しよ？」

橙弥 「今度はもっともっと、愛してあげるから、さ？（軽い触れるだけのキス）」

608 ○収録区切り⑥  
609 ●トラック3  
610 ■後日談  
611 ■数日後  
612 ■場所: 橙弥の部屋  
613 ■時間: 夜9時ごろ  
614  
615 橙弥が後ろからヒロインを抱きしめている。  
616  
617 DHM:⑤(⑦にかけるように)  
618 橙弥 「ねえさんが俺の部屋きて、ベッドの上にいるなんて新鮮〜」  
619  
620 ヒロイン 「だからって後ろから抱きしめなくてもっ」  
621  
622 橙弥 「今日は後ろから抱きしめたい気分だったんだからいいじゃん。それより」  
623  
624 橙弥 「別れてきたんでしょう？ 例の彼氏さん」  
625  
626 ヒロイン 「うん……別れたよ」  
627  
628 橙弥 「で、別れた後に俺のところにきたってことは……  
629 (耳元でわちゃぐ)の間の続き、するってことだよね？」  
630  
631 ヒロイン 「えっと、そ、それは……こー」  
632  
633 橙弥 「ねえさん、耳まで真っ赤。かわいいー。(耳にキス)」  
634  
635 胸を揉んで。  
636  
637 橙弥 「んっ」  
638  
639 橙弥 「いつもと胸の触り心地が違うけど……」  
640  
641 橙弥 「パジャマなのにブラしてんの。」  
642  
643 橙弥 「もしかして、えっちなからって、おしゃれしてくれたの？」

644  
645 橙弥 「そーいえば風呂もいつもより長かったもんね」  
646

647 橙弥 「えー、俺、めっちゃうれしいけど〜」  
648

649 橙弥 「それに、今までは無防備にパジャマの下ノーブラだったし。  
650 ねえさんの下着姿、みてみたいなあ」  
651

652 トロイン 胸を腕で隠しっ。

653  
654 トロイン 「そっついわれると、逆に見せにくいよっ」  
655

656 橙弥 「じゃあ、俺がパジャマ脱がしてあげる」  
657

658 橙弥 「ほら、恥ずかしがってないで、胸隠してる腕どけて？  
659 それともまた、拘束されたい？」  
660

661 トロイン 「っっ」  
662

663 トロインが手をどけると、ボタンを外す。  
664

665 橙弥 「わ、かわいいブラ。ねえさんによく似合ってるよっ。」  
666

667 橙弥 「恥ずかしいの？ また隠して、もう。俺ブラの下まで見たことあるよっ。」  
668

669 ブラの上から胸を撫でたり揉んだり。  
670

671 橙弥 「ほんとかわいい。結構ブラって分厚いんだね。あれ？  
672 ねえさん、ブラの上からでも感じるの？」  
673

674 橙弥 「だって声出てるじ。なによりちよつと乳首勃ってるよねっ。ニリっしゅっ。」  
675

676 ブラの上から乳首擦る。  
677

678 橙弥 「ねえさん敏感になったね？ それとも、ブラ越しに触られるの、気持ちいいっ？」  
679

680 橙弥 「(乳首)ブラの上から擦りながら(でも、そんなに声我慢できないって、  
681 感じじゃないね。どっちかっていうと……)」  
682

683 ヒロイン 「うう、変な感じ、って、ん、いうか、も、もどかしいっていつか……」  
684

685 橙弥 「へー……もどかしい感じなんだー。  
686 ふふふ、もう少しブラの上から乳首、擦ってあげるよ」  
687

688 ヒロイン 「んん、なんでっ」  
689

690 橙弥 「えー？ なんでって、もどかしいんでしょ？  
691 ーうやあってしばらくもどかしいまま焦らされたほうがオホ。  
692 直接触られたとき、気持ちいいんじゃない？」  
693

694 橙弥 「ほらほら、どんどん、直接触って欲しくなってきたでしょ？  
695 声、いやらしいくなってるっ」  
696

697 ヒロイン 「橙弥っ……いじわる、しないでっ」  
698

699 橙弥 「いじわるじゃないけどー。そんなかわいくお願いされたら直接触るしかないね。  
700 でも、せつかくだから、ブラの横から、手いれて……」  
701

702 ブラ横から手を入れ、乳首イジめる。  
703

704 橙弥 「指の間に挟んで……お、もー、乳首、こりこりしてるー。  
705 ……なんかブラ付けたままのおっぱいって、いつもより圧迫感あるね。  
706 なんていうか、柔らかさよりハリとか弾力を味わえるっていうか。  
707 ーこれはこれでいいなあ」  
708

709 橙弥 「ねえさんはどうっ？」  
710

711 ヒロイン 「あっ、んっ、乳首が、ブラにも擦れて……っ」  
712

713 橙弥 「へえ？ 乳首、ブラに擦れて余計気持ちいいんだ？  
714 指とブラで、刺激、倍になってるのかな？」  
715

716 DHM:⑦  
717 橙弥 「」のまま耳も責めちゃおっかなー。  
718 ほら、また耳奥、じゅぽじゅぽしてあげるよ？ 好きでっしょ。」  
719  
720 橙弥 「(耳舐め 10秒)」  
721  
722 橙弥 「どー？ 耳の奥まで俺の舌がはいってるよ？」  
723  
724 橙弥 「(耳舐め 10秒)」  
725  
726 橙弥 「そんな逃げようとされると、もっと執拗に責めたくなるなあ」  
727  
728 橙弥 「(耳舐め強 15秒)」  
729  
730 橙弥 「はあ……、ふふ、ムキになっちゃった。  
731 だって、ねえさん、すっごいえろい声出すんだもん。  
732 まだ上半身しか責めてないのに。でも、ねえさんがいやらしいからわあ。  
733 俺も、すっごく興奮してきてるんだよね」  
734

735 ○収録区切り⑦

736  
737 トロインの尻に固くなりつつあるチン」を「すりつける。

738 DHM:⑦→⑤

739 橙弥 「ほら、ねえさん、お尻で感じてよ。俺のチン」の勃起具合」

740  
741  
742 橙弥 「ねえさんはどう？ 濡れてきた？ 余計なスポン下ろして、確認してみよっか」

743  
744 トロインのスポンを脱がす音。

745 DHM:⑤

746 橙弥 「あれ？ パンツ、ブラとお揃いじゃん。へえ……

747  
748 そっか、ここまでちゃんとかわいくしてくれたんだ。

749 ほんととは、スポンと一緒に脱がしちゃおうとおもったんだけど……

750 そのかわいいパンツ、もっとよく見せてよ」

751  
752 背中から離れ、ヒロインをベッドに転がす。

753 DHM:⑤→①+

754 橙弥 「ほら、横になつて。あ、足閉じようとしなくてよ。

755  
756 じゃなきゃ、パンツよく見えないじゃ？」

757  
758 足の間に入って閉じさせないようにして。

759  
760 橙弥 「わ、かわいいパンツ、もっと出しな」

761  
762 パンツ越しにまんこの筋をなぞる。

763  
764 橙弥 「(パンツ越しに手マンしながら)もうぬれぬれじゃん。

765 触るたびちゅちゅちゅ音するし。乳首とか耳とか、そんなに気持ちよかった？

766  
767 それとも……最初からすごい期待、してた？」

768 橙弥 「でも、せっかく選んできてくれたパンツ。すぐ脱がすのもったいないなあ。

769  
770 でも、すでにシミになっている……

あ、俺が舐めてキレイにしてあげればいいのかな？」



ヒロイン「なに言ってる——っ」

橙弥「(パンツ越しにクニニ１０秒)」

橙弥「はあ、あれー？　ねえさん、キレイにしようとしてるのに、  
どうして、中からまた、とろろとしたのがでてきているのかな？」

橙弥「(パンツ越しにクニニ１０秒)」

橙弥「(クニニしながら)やっぱ、もどかしい？  
すっごい押し付けてくるからさあ直接クリ、舐めてほしいのかな、って」

橙弥「(クニニしながら)どう？　直接舐めてほしい？  
ほしいならほしい、っっっっみて？」

橙弥「言えないの？　じゃあ、ほら、パンツ越しにクリ、吸ってあげるよ。  
やっきよりは強い刺激になるでしょ？」

橙弥「(パンツ越しにクニニ１５秒)」

ヒロイン「はあん、お、お願い……、も、なめ、て。ちよくせつ、舐めてっ」  
橙弥「はは、よく言えました。じゃあ、直接、クリ、舐めてあげるね」

パンツを脱がす。

橙弥「(クニニ１０秒)」

橙弥「んん、はあ、いい反応。中に指、入れて……あげる」

橙弥「(クニニ+手マン　１０秒)」

橙弥「イっていいよ、ほら、もっと激しくしてあげるからっ」

橙弥「(クニニ+手マン中、強徐々に１５秒)」

807  
808

ヒロイン、絶頂。

809  
810

潮吹き

811  
812

橙弥

「はあ、すごい……」わって潮吹きしてやつ。すごいひちひちゅ

813  
814

橙弥

「舐めとってあげるね」

815  
816

橙弥

「(クンニ弱 10秒)」

817  
818

一通り舐め終わると顔をあげて。

819

DHM:①→①

820  
821

橙弥

「……ふう、ふう、ねえさんの顔えつろ。気持ちよかった？

822

「つても、そろそろ外そっか？」

823 ○収録区切り⑧  
824 ブラを外す。  
825 胸の隙間に顔をうずめし。  
826  
827 DHM:①ト(胸の位置)  
828 橙弥 「すーっ、はぁ……あー、ねえちゃんのおっぱいの隙間ってきもちいいねえ。  
829 ちゅーっ、ちゅーっ、ちゅーっ」  
830  
831 橙弥 「ん？ なぁに？ 何か言いたいならはつきり言ってよ。  
832 あぁ、乳首舐めてほしいとか？」  
833  
834 DHM:②ト(右乳首)  
835 橙弥 「(乳首舐め 10秒)」  
836  
837 橙弥 「違うの？ かわいらしい声でてるけど。あ、反対も？」  
838  
839 DHM:③ト(左乳首)  
840 橙弥 「(乳首舐め 10秒)」  
841  
842 橙弥 「違うだけじゃわかんないなぁ？」  
843  
844 DHM:④  
845 橙弥 「ちゃんと言ってみて？、ねえちゃんは思ってること言ってくれないっ。  
846 勝手に決めつけて行動しちゃって彼氏とか作っちゃうっ？  
847 言ってくれないと俺、わかんないなぁ…」  
848  
849 橙弥 「(意地悪に)入れないの、ってなにを？」  
850  
851 橙弥 「えー。でもねえちゃんの口から聞きたいんだもん。しゃーないじゃん」  
852  
853 DHM:⑤寄っ  
854 橙弥 「ねえ、言っつよ。橙弥のチン」っわっ。」  
855  
856 橙弥 「ほら、はやっ」  
857  
858 トロイン 「橙弥の……チン」っわっ。」

859 DHM:①

860 橙弥 「ふふふ、よくできました」

861  
862 橙弥 「じゃあ……ねえさんが上になろうか？」

863  
864 腕を引いて「ロインを起」っっ。

865  
866 DHM:①やや遠め

867 橙弥 「俺のチン」ほじいでしょ？ 自分でいれてみてよ」

868  
869 橙弥 「ねえさんから俺のこと受け入れるって、行動で示してほしいな」

870  
871 橙弥横になる。

872  
873 DHM:①やや下、やや遠め

874 橙弥 「ほら「」に乗って」

875  
876 橙弥 「下から見上げるなんて、新鮮。あー、めっちゃ興奮する」

877  
878 橙弥 「大丈夫。ゆっくり腰下ろせば入るよ？ それとも、俺のこと焦らしてんの？  
879 俺も早く、ねえさんの中に挿れたいよ？」

880  
881 橙弥 「先っぽ、入ったね。んん、ねえさんの中あったかくて、吸い付いてきて、「ヤイ」ー」

882  
883 橙弥 「はあ、ねえさんが、俺のこと自分から飲み込んで……」

884 っ……ん、はあ、やっぱっっうれしすぎて、ガンガンにつきたい」

885  
886 橙弥 「あれ？ ガンガンにつかれるの想像した？

887 今、まんこの中、きゅっってきつくなつたよ？

888 ふふ、でも、まだガンガンっくのはお預けだよ」

889  
890 橙弥 「奥まで入ったね。じゃあ、まずは自分で動かしてみて？ なに？ 恥ずかしい？  
891 恥ずかしいがつてるねえさんもかわいいし、めっちゃチン」にっくさあ」

892  
893 橙弥 「ほらー、ゆっくりにいいから「ヤッ」

894

895 橙弥 「ふふ、いいじゃん。はあ、下から見揺れてるおっぱい、めっちゃえろ」

896

897 橙弥 「やべえ、思ってたより、ずっと興奮する。」

898 恥ずかしがりながら、気持ちよくなりかけてる顔も、すっげえそそるよ」

899

900 橙弥 「あー、しかもまんこ、すっげえ絡みついてくるっ。

901 ねえさんの腰つき、ほんつといやらしい」

902

903

904 橙弥 「そんな懸命にお尻ふられたら、俺もじっと見てるだけなんてできないよ」

905

906 橙弥 「下からついてあげるから、もっと乱れてっ」

907

908 腰に手を添えて

909

910 橙弥 「(ピストン中 10秒)」

911

912 橙弥 「んっ、ねえさん、すごい。自分だけ動くのじゃ、物足りなかったの？

913 声、ちつきと全然、違う、ね」

914

915 橙弥 「俺の、ちきっぱ、リ「リ」してるより、あたってる、よ。子宮降りて、きてるっ。

916 ふふ、ポルチオっていうの？ ニングリグリ擦られるの、気持ちいいって、

917 聞くよね？ して、あげる」

918

919 橙弥 「(ピストン中 10秒)」

920

921 橙弥 「はあ、ねえさん、今までじゃ、考えられないくらい、乱れて、えろっ。

922 俺を受け入れてそんな、腰振ってるの、やば」

923

924 (以降、ピストン中、強徐々に)

925

926 橙弥 「はっ、んっ、ああ、これが愛し合ってる、ってやつ、なんだねっ」

927

928 橙弥 「はあ、ねえさん、好きだよ。だいすき。ねえさんは俺だけの、だよっ」

929

930 橙弥 「はっ、もっと俺のこと、感じてっ、だいすきっ」

931  
932 橙弥 「ねえさんっ、うれしい。俺もすぎ、愛してるっ」  
933

934 橙弥 「(ポストン強 10秒)」  
935

936 橙弥 「はあ、興奮しすぎて、がまん、できないっ、ねえさんが、好きっていう度、  
937 すっ、い、すっ、い、くるっー。ん——でるっー。」  
938

939 橙弥、射精。  
940

ヒロイン、出されて絶頂。

941 もたれかかっているヒロイン抱きとめる。  
942

943 DHM:②やや上

944 橙弥 「(息整えながら)ねえさん、気持ちよすぎて、力、はいらない？ ふふ、俺も。  
945 けど、」のまま、抱き合っているのも、すっ、く恋人っぽくて、うれしいよ」  
946

947 DHM:①

948 橙弥 「ねえさん、好きだよ。本当に気持ちに通じてうれしい(おでこにキス)」  
949

950 橙弥 「(頬や目元に2,3回キス)ねえさんの、全部好き。全部に、キスしたい。  
951 っ)のやわらかいほっぺも、長いまつ毛も、えろやわらかい唇にも」  
952

953 橙弥 「(触れるだけのキス 2,3回)」  
954

955 橙弥 「(ディープキス 10秒)」  
956

957 橙弥 「はあ、舌も、口の中全部」  
958

959 橙弥 「(ディープキス 15秒)」  
960

961 橙弥 「はーあ……キスと、ねえさんのその蕩け切ったえろい顔。すっげえきゅ。  
962 チン」もっ元気になっちゃった」  
963

○収録区切り⑨

「うん、と態勢を逆転させ、ヒロインの上にかぶわっ。」

DHM:①

橙弥 「よいしょ……もつかいしょ？ 今度は正常位で。」

「下からだ、あんまりガンガンつけなかったし」

橙弥 「それに早く、この苛立ったチンコ。ねえさんの中に入れないと耐えられないよ」

一気に挿入。

橙弥 「はあ……ぬるつと入った。二回目って、また、違うね。」

「前より、すごい、中、うねってるっ」

橙弥 「もう、ねえさんのまんこ、俺の形になってる、っていうか、ぴったり、っていうか」

橙弥 「はあ、もう、すぐにガンガン奥まで突きあげたい。」

子宮の入り口にチンコ、キスさせたい」

ヒロイン両手を橙弥に向け伸ばす。

橙弥 「ん？ 手を繋いでほしい？ いいよ、恋人つなぎ、しよ」

両手を恋人つなぎする。

橙弥 「あれ？ 手、繋いだだけなのに、びゅびゅして……全身敏感になってるっ」

橙弥 「へえ？ 指擦るだけで……気持ちよそっ、だねっ」

橙弥 「じゃあ、まんこの中も指もたくさん擦ってあげろ」

橙弥 「(ピストン弱 10秒)」

橙弥 「っはあ、なんか、一回目より、すごい。ちよつこの刺激でも、まんこが、ぎゅっぎゅっ、チンコ抱きしめちゃうわ」

1000  
1001 橙弥 「も、一番奥までいれちゃおうーん、ああ、「リ」「リ」してる。  
1002 さっきもポルチオ、めちゃくちゃ声変わるくらい感じてたよね？  
1003 たくさんチン」の先で、キスしてあげるよ」  
1004  
1005 橙弥 「(ピストン弱 10秒)」  
1006  
1007 橙弥 「きもち、いいね？ 締め付け、やっぱいもん、はあ」  
1008  
1009 橙弥 「ポルチオ、ぐりぐりして、指擦って、キスしたら、ねえさんのまんこ、  
1010 どうなっちゃう、かな？」  
1011  
1012 橙弥 「(ピストン＋ディープキス 10秒)」  
1013  
1014 橙弥 「ん、はあ、ああ、まんこ、こんな気持ちいいのっ？ 締め付け、すっ」  
1015  
1016 橙弥 「(ピストン＋ディープキス 10秒)」  
1017  
1018  
1019 ヒロイン絶頂。  
1020 橙弥 「はあ、ねえさんの、まんこ、すっく、いい。ああ、きもちいい。  
1021 ねえさん、ねえさん、ねえさん……はあ、イッてる？  
1022 はあ、でも、まだこれからだよ？」  
1023  
1024 橙弥 「今度は、奥、ガンガン、突き潰して、上げる、からっ」  
1025  
1026 橙弥 「(ピストン強＋ディープキス 10秒)」  
1027  
1028 橙弥 「イキっぱなし、のまんこ、は、すっく、すげっー」  
1029  
1030 橙弥 「(ピストン強＋ディープキス 10秒)」  
1031  
1032 橙弥 「でも、まだ、まだ、もっと感じて、もっとイッて…  
1033 俺なしじゃ、だめな体になってるっー」  
1034  
1035 橙弥 「(ピストン強＋ディープキス 10秒)」



1036  
1037 橙弥 「だい、すぎっ、あいしてる、あいしてる、あいしてるっ」  
1038  
1039 橙弥 「ねえさんの、一番、奥に、は、出すー」  
1040  
1041 橙弥、射精。  
1042 ヒロインの上に覆いかぶさって抱きしめる。  
1043  
1044 DHM:⑧寄り、やや上  
1045 橙弥 「はぁ、はぁ、はぁっ(しばらく息切れ)」  
1046  
1047 橙弥 「……きもち、よかったー……」  
1048  
1049 ヒロインの顔を覗き込む。  
1050  
1051 DHM:①  
1052 橙弥 「ねえさん、だいじょうぶ？」  
1053  
1054 橙弥 「じゃべれないなら、喋らなくてもいいよ(唇に触れるだけのキス)」  
1055  
1056 橙弥 「だいすき」  
1057  
1058 ヒロイン「私も、だい、すき」  
1059  
1060 橙弥 「へへ、ねえさんから、同じ言葉返ってくる。うれしいなあ」  
1061  
1062 ヒロイン「はぁ……もう、恋人、だし？」  
1063  
1064 橙弥 「恋人かぁ。ねえさんの口から言われるの、やばいなあ。  
1065 胸の奥がすっごく熱くなる」  
1066  
1067 橙弥 「あと、チン」も」  
1068  
1069 ヒロイン「えっ、に、二回も出した、のにつ」  
1070  
1071 橙弥 「二回くらいじゃおまんないの。俺が長年溜め込んでたねえさんへの想いは」

1072  
1073 橙弥 「まだまだ足りないから、全部受け止めてほしいな」  
1074  
1075 橙弥 「まだ朝が来るまで時間あるし、抱き潰してあげるから、ね」  
1076  
1077 橙弥 「覚悟してよ？」  
1078 END  
1079